

Ⅰ 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
  - b 脱字。
  - c 文末の句点の脱落。
  - d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。  
※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
  - e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- ※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一

※ 問一・問四は解答例のみ正解とする。問一の読みが平仮名になっている場合は0点。  
※ 問三の誤字は1点減点。

問一 各2点

a || ツム b || 連綿 c || 精緻 d || オビヤ e || 堅持  
f || スイコウ g || 債権 h || 同胞 i || アタイ j || トナ

問二

■ 形式上の不備

- ・ 文末表現は要素参照

基準 配点12点

■ 模範解答例

A  
人間と動物との本源的な連続性が分子生物学的なレベルで証明されて、動物に対する人間の独自性が維持不可となり、家畜として莫大な数になった動物が、利便性の副作用として深刻な環境破壊の一因となっている状況

C D E B

■ 字数：百字 四十九字以下のものは全体不可（0点）

■ 要素A 「人間と動物との本源的な連続性が分子生物学的なレベルで証明され」…3点

- ・ 「分子生物学的なレベルで」は「動物関連科学により」などでも可。この説明を欠く場合は2点。
- ・ ほぼ同内容の説明がなされ、ると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■ 要素B 「動物に対する人間の独自性が維持不可能となり」…3点

- ・ 「動物に対する」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■ 要素C 「家畜として莫大な数になった動物」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■ 要素D 「利便性の副作用」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「深刻な環境破壊の一因となっている」…2点

- ・ 「環境破壊」に言及していれば可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「…こと・状況」という形が原則的な文末表現。状況の説明として適切な文末表現になっていると判断できれば可。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問三 各5点

XⅡ手段的な物件

YⅡ目的的な人格（目的的なもの）

問四 各4点

ⅠⅡオ

2Ⅱキ

問五（一）

■形式上の不備

・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例

A

B

C

動物に対する残酷な振る舞いは、動物の苦痛に対する人間の同情心を鈍化させて、それが人間同士の道德感情に悪影響を与えるから。

■字数…六十字 二十九字以下のものは全体不可（0点）

■要素A「動物に対する残酷な振る舞いは」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「動物の苦痛に対する人間の同情心を鈍化させて」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「それが人間同士の道德感情に悪影響を与える」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「…から…ので」が原則的な文末表現の形。但し、理由説明答案として許容できる文末表現にならなければよい。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例

たとえ残酷な行為であっても、神聖な目的を達成するために、人格を持たない物件である動物を道具にする

A

B

C

D

こと自体は正当であるから。

■字数…六十字 二十九字以下のもは全体不可(0点)

■要素A「残酷な行為であっても」…1点

- ・ほぼ同内容の説明が存在するかどうかを吟味する。

■要素B「神聖な目的を達成するために」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「人格を持たない物件である」…2点

- ・「人格を持たない」と「物件である」のいずれかがあればよい。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「動物を道具にすること自体は正当である」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「…から…ので」が原則的な文末表現の形。但し、理由説明答案として許容できる文末表現にならなければよい。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点1.4点

■模範解答例

A  
 理性のない動物に責任能力はないとカントは考えているようだが、その理性が理解能力なのか心なのか判然  
 B  
 とせず、動物は自己意識を持たないとしながら動物への同情を強調するカントは動物の心を前提にしている  
 C  
 ようでもあり、その言説は理解し難いと考えている。  
 D  
 E  
 F

■字数…百二十字 五十九字以下のものは全体不可(0点)

※ 要素A・C・Dがカントの動物観、要素B・E・Fがそれに対する筆者の疑念、批判である。それぞれの要素が提示される順序は模範解答例通りでなくても可。

■要素A「理性のない動物に責任能力はないとカントは考えている」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「理性」という語を欠き、「責任能力はない」ということだけ示されている場合は2点とする。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「その理性が理解能力なのか心なのか判然とせず」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「動物は自己意識を持たない」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「動物への同情を強調するカント」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「動物の心を前提にしているようでもあり」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「その(カントの)言説は理解し難い」…2点

- ・カントの動物観は筆者には容認しがたいというニュアンスが読み取れること。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G カントの動物観についての筆者の考えを説明した答案として、文末表現の形式が不自然であると判断される場合は1点減点。

# 第一回名大本番レベル模試 大問二

問一 ア 配点…10点

■現代語訳の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答

a b c d e

後深草院が取るものも取りあえず父雅忠を見舞おうと思ひ立ちなされた御様子も、たいそう光栄である

■要素 a 後深草院が…1点

・主語を補う。「後深草院・院」以外は○。

■要素 b 取るものも取りあえず…1点

・「用意なく・取り急ぎ・とるものもとりあえず・とりあえず」など、時間を要していないことがわかれば可とする。①点

■要素 c 父雅忠を見舞おうと…2点

・「思ひ立つ」の内容を補う。  
・「雅忠を・二条の父を・私の父を・作者の父を」＋「見舞う・見舞いに訪れる・訪れる」など各①点。

■要素 d 思ひ立ちなされた御様子も…4点

・「思ひ立つ・思いつく・決心する」①点＋「尊敬語(なされる など)」①点  
\*「思ひ立つ」が「思う」のみは行動したことになるので不可。  
・完了「た」。①点  
・「様子・さま」①点。

■要素 e たいそう光栄である…2点

・「とても・たいそう」。①点  
・「光栄だ・晴れがましい・面目が立つ。名誉に思う」など。①点 \*「うれしい」も○とする。

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問一 イ

配点：8点

■現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点是不問

■模範解答

a

b

c

狩衣も着ずにこの身なりのまま後深草院にお目にかかることまでは思いも寄りません。

■要素 a 狩衣も着ずにこの身なりのまま：2点

・ 充分な礼儀を払った身なりではないことがわかれば可。

■要素 b 後深草院にお目にかかることまでは：3点

・ 「院に」も可。①点

・ 「会う」(①点)の謙譲語(①点)にあたる語。

「お会いする・対面申し上げる・拝調する」なども可。

「見る」と「見ゆ」は異なるので「見申し上げる」は△①点

■要素 c 思いも寄りません：3点

・ 「思いつき・思い浮かび・考え・考えつき・思い」なども可。①点

・ 「丁寧語」です・ます「①点

・ 打消①点

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問



問一ウ

配点：8点

■現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答

a

c

b

d

e

二条は母には幼少の頃に先立たれたので、私だけが唯一の肉親だと思い育ててきましたのに

■要素a 二条は：1点

・主語を補う。「二条は・娘は」など、雅忠から見て二条を指す言葉であれば可。

■要素b 幼少の頃に：1点

・「二葉」の意味を説明する。「幼少の頃・小さい頃・幼い頃」など。

■要素c 母には先立たれたので：3点

・「先立たれる・遺される・おいて逝かれる・死別する・失う」など。

母が亡くなったことがわかれば可。①点

・過去・完了「くた」など①点。

・順接「ので・から」など①

■要素d 私だけが唯一の肉親だと思い：1点

・「我のみ」のあとの省略を補う。自分だけが、二条にとっての親にあたる人物であることが

わかれば可。

■要素e 育ててきましたのに：2点

・「育てる」+丁寧語「です・ます」+完了(存続も可)「た」+逆接「けれど・のに」など

四つのうち二つできて①点。四つできて②点

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問二 A

配点…12点

■心情説明の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現「心情・気持ち」など・句読点は不問

■模範解答

a

b

c

d

e

雅忠の、二条が幼い頃に母に先立たれ、唯一の肉親である父親の自分にも身重の状態であ  
れ

f

て一人遺されることになることが、不憫で悲しいという心情

■要素 a 雅忠の…2点 ・心情の主体。「父・雅忠・源雅忠」など。

■要素 b 二条が…2点 ・「二条」は b c d e のどこかに入っていれば可。

■要素 c 幼い頃に母に先立たれ…2点 ・母親を失っていることがわかれば可。

■要素 d 唯一の肉親である父親の自分にも先立たれて一人遺されることになることが…2点

・これから父親も失おうとしていることがわかれば可。または一人遺されるなどの表現でも可。

■要素 e 身重の状態…2点

・娘二条が妊娠中であることがわかれば可。

■要素 f 不憫で悲しいという心情…2点

・「気の毒だ・かわいそうだ・不憫だ」など

・文末表現が「〜心情・〜気持ち・〜と思っている・感じている」となっていること。

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問二 B

配点：12点

■心情説明の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現「心情・気持ち」など ・句読点は不問

■模範解答

a

b

c

d

二条の、父雅忠が一人遺される自分の庇護を後深草院に頼み、後深草院への三世の忠誠を誓う様

e

f

子を見て、死ぬ前にさまざまに配慮していると感じ、しみじみと悲しく思う心情。

■要素 a 二条の：2点

・心情の主体。「二条・作者」など。

■要素 b 父雅忠が：2点

・心情の対象。「父・雅忠・源雅忠」など。

■要素 c 一人遺される自分の庇護を後深草院に頼み：2点

・父が二条のことを後深草院に頼んでいることがわかれば可。

■要素 d 後深草院への三世の忠誠を誓う様子を見て：2点

・父が後深草院に死後も忠誠を誓っていることがわかれば可。

■要素 e 死ぬ前にさまざまに配慮していると感じ：2点

・死を覚悟して遺言のつもりで言葉を残していること、または、二条のために配慮していることがわかれば可。

■要素 f しみじみと悲しく思う心情：2点

・悲しい・しみじみと悲しい など

・文末表現が「～心情・～気持ち・～と思っている・感じている」となっていること。

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問三

配点…10点

■和歌の解釈の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末・句読点是不問。

■模範解答

a

b

c

たとえこの世で別れても、主従は三世続く宿縁があると聞くので、やはり次の世でもお仕えてき

d

るだろうと来世をあてにするばかりでございませう。

■要素a たとえこの世で別れても…2点

・逆接の仮定「たとえ〜としても」①点

・別れが（後深草院と雅忠の）「死別」であることがわかれば可。①点

■要素b 主従は三世続く宿縁があると聞くので…3点

・「三代の契り」について注を利用して説明していること。②点

・順接確定条件原因理由「ので・から」①点

■要素c やはり次の世でもお仕えてきだろうと…2点

・副詞「やはり・いっそう・ますます」①点

・「行く末」が「来世でも後深草院に仕えるということ」であることがわかれば可。①点

■要素d 来世をあてにするばかりでございませう…3点

・「来世」がc・dのどちらかに入っていること。①点 「行く末」のままは不可。

・「あてにする・頼みとする・頼りにする」②点

■その他…余計な言葉があっても不問

★2022年度 第一回 名大本番レベル模試

三 採点基準

※ 60点満点

問一 各2点

- a のみ
- b このゆゑに
- c もっぱら

※解答通り

※カタカナ書きは不可

※b 「このゆゑに」はマイナス1点

※c 「もっぱら」はマイナス1点

※b 「これゆゑ」「これゆゑに」「このゆゑ」は不可

問二 8点

A 2点

国王としての国家統治の大業も、

B 2点

いきなり成るものではなく、

C 2点

低い所を土台として高みに至り、

D 2点

小さなものを積み重ねて大きなものになるようにして

B,

成るのである

E

ということ。

採点のポイント

A 「王業も」の言い換え……2点

※ 「王業も」のままや「王道も」はマイナス1点

B 「即成るのではなく、順を追って」の要素の補い……2点

※ CやDがどのようなことを言いたいのかということを知りたい。

C 「高きは卑きを以て基と為し」の要素……2点

※ 「身分の低い者を基準にして」「家臣のはたらきがあって成り立ち」などは不可。

D 「大は小を積み重ねて成る」の要素……2点

※ 「小さなものが積み重なって天地が作られる」「小さなことから積み上げるべきだ」などは不可。

B, 「( )のようにして」成る」の要素。Bとの対応のためこれ単独での加点はなし。

E 文末の「〜ということ」の有無は不問とする。

問三 8点

A 3点

覇者になることができないで

B 2点

王者になることができた者は、

C 3点

誰もいないのである。

採点のポイント

A 「伯たること能はざれば」の訳……3点

※ 「覇者になることができないのに」と逆接でも可。

※ 「覇者にならなければ」のように、可能が欠けているものはマイナス1点

B 「能く王たる者」の訳……2点

※ 「王者になった者」のように、可能が欠けているものはマイナス1点

C 「未だ有らざるなり」の訳……3点

※ 「未だ……ず」の直訳の形でなくともよい。

現代語訳問題のため、次のような形は減点。

※ 「覇者になれなければ、王者になることもできない」マイナス4点

※ 「覇道をなさずに王者になれた者はいない」マイナス3点

※ 「覇道を以て国を治めることができなければ、王道を以て天下を治めることはできない」……国と天下の対比ではない。不可。

※ 「〜ということ」が文末にある場合はマイナス2点

諸侯の能く先王の道を行ふ者有らば、

採点のポイント

- ※すべてひらがなにしてしまったものは、それが全て合っていれば2点与える。
- ※「先王之道」の「之」を「の」にしているものは不可。0点。
- ※返り点の読み順のミスや脱字などがある場合は不可。0点。
- ※「諸侯の」「の」がないものはマイナス1点
- 「諸侯は」など全く違った読み方になっている場合は不可。0点。
- ※「能く」を読み間違えているものは不可。0点。
- ※「先王の道を行ふ」と読んでいないものは不可。0点。
- ※「行ふ」が「行う」になっている者はマイナス1点とする。
- ※「有らば」は「有れば」でも○。
- 「有り」はマイナス4点



問五 8点

A 2点

自分を招聘する者が誰であろうが、

B 2点

その人物を補佐し、

C 4点

先王の行った王道政治を実践しようと考えていた

D 不問

から。

### 採点のポイント

A 「公山佾の陪臣を以て之を招くと雖も」の要素……2点

B 「尚ほ往かんと欲す」「之に相たらんとす」の要素……2点

※単に「行って」ではマイナス1点。

C 「將に以て其の道を行ふこと有らんとす」「其の道とは何ぞ、先王の道なり」の要素……4点

※CのためにはA Bという順でもよい。

D 文末の「から」「ので」「ため」の有無は不問とする。

孔子豈に伯を悪まんや。

採点のポイント

※すべてひらがなにしてしまったものは、それが全て合っていれば2点与える。

※返り点の読み順のミスや脱字などがある場合は不可。0点。

※「豈にくんや」の型になっていないものは不可。0点。

※「哉」を漢字のままにしているものは不可。0点。

※「伯を悪まんや」の「を」の読み違いは不可。0点。

※「悪(にく)まんや」を「悪(あく)とせんや」にしているものはマイナス1点

※現代語訳しているものは不可。0点。

問七 20点

A 2点

王道と霸道は、

B 2点

低い所を土台に高い所が、

C 2点

小を積み重ねて大が成り立つように、

D 2点

まずは覇者になれなければ王者をめざすこともできないのであり、

E 2点

覇者から王者へと漸進するのであって、

F 2点

王道は霸道の大成したものである。

G 2点

それゆえ、孟子が王道を唱えて霸道を非として以来、

H 2点

二者が峻別されるようになったのは、

I 4点

間違っている。

### 採点のポイント

A 「王道と霸道」についてのスタート……2点

B 「高きは卑きを以て基と為し」の要素……2点

C 「大は小を積みて成る」の要素……2点

D 「未だ伯たること能はざれば未だ能く王たる者有らざるなり」の要素……2点

E 「能く伯たる者は、王の漸なり」「伯は王の未だ就らざるなり」の要素……2点

F 「王は伯の大成せるなり」の要素……2点

G 「孟子伯を継けて専ら王を言ふに至りて」の要素……2点

H 「王伯の分、遂に涇渭を成す」の要素……2点

※ 「涇渭を成す」の比喩が正しく書けているかどうかポイント。

I 「豈に痛ましからずや」の要素……4点